



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一〇六号）

立夏

五月六日



エコ参宮その3 五十鈴公園

伊勢路裁苑さいえんが主催するエコ参宮の第七回に参加しました。今回は、おかげ横丁から五十鈴川沿いを歩き、伊勢市中村町にある宇治山田神社うじやまだを参拝し、五十鈴公園に立ち寄るといふもの。いつものように、伊勢市文化財調査委員の岡與一先生よいちのご案内です。

今回のコースにあたる五十鈴公園は、陸上競技場や体育館などの施設がある三重県営総合競技場の一帯をいいます。この間まではサクラが見頃でしたが、よく目についたのは、サンゴジュ。西行谷あたりの川を縁取るように木が並んでいました。秋になると赤い実が、名の通りサンゴのように鈴なりになるのは知っていたのですが、岡先生曰く、「これは、競技場にたくさんお金がいったので、安くあげようとしたんですな（笑い）」とのこと。常緑樹のサンゴジュは、耐火性にすぐれ、一度根付くと非常に丈夫な特性があるため、観賞用というより、どちらかという生垣などによく使われます。お値打ちとは、植物に詳しい岡先生ならではのお話です。

また、サンゴジュは、植物観察にも最適。葉を折ると白い糸を引きますが、これが導管どうかんと呼ばれるもの。根から吸収した水分や養分などを送る管で、岡先生が学校で教えている頃には、教材としてよく使ったそうです。

五十鈴公園は、昭和三十九年に体育館が、同四三年に陸上競技場が建てられ、同五〇年には、第三〇回三重国体のメイン会場となりました。おそらくその頃に植えられたサンゴジュは、今では三メートル超の高さにまで育ちました。赤い実が目立つのですが、実は白い花が六月に咲きます。その花言葉は、負けず嫌い。陸上競技場の樹木としては、最適かもしれません。

文 千種清美

